

佛 教 研 究

親鸞聖人著述研究號

第四卷第三號

大正二十二年十二月發行

目 次

口繪・親鸞聖人自筆唯信抄斷簡

親鸞聖人著述總論

教行信證著作の意志及びその年代に就て

教行信證古寫本の種類及びその最古の註疏

本願三心の考察

淨土文類聚鈔に就て

淨土三經往生文類と往還廻向文類

三經往生文類に就て

尊號眞像銘文と光明本尊

一念多念文意の研究

入出二門偈頌の研究

親鸞聖人御眞蹟唯信抄について

親鸞聖人の國語について

岡教遂君の梵文和澤法華經に就て

最近佛教研究論文一覽

橋川正

中澤見明

日下無倫

金子大榮

大須賀秀道

加藤智學

鷲尾教導

橋川正

山上正尊

廣瀨南雄

日下無倫

井上右近

萩原雲來

大谷大學佛敎研究會

版出仕奉念記年百七宗開教立

大谷大學教授 日下無倫先生延譯并解説

眞 阪 東
本 教 行 信 證

口繪 教行信證延
附錄 古寫本二十一
正 價 教行信證延書解
送 料 金拾五圓
錢 圓 題 題 枚 書

「教行信證」は親鸞聖人立教開宗の本典にして、そが信仰の結晶、思想の全面を如實に吐露せられたるものなり。然れども漢文にして、殊に聖人独自の筆格により叙述せられたるものなれば、古來専門學徒も猶容易に讀過し難しとしたり所、到底今日常人の讀書眼に入るべきものにあらず。現時親鸞熱勃興して我邦思想界を風靡しつつあるも、如上の意味に於て能く『教行信證』に接するもの殆どあるなく、ために聖人の思想信仰の全豹を窺知する能はずして、徒らにこれを謬まり傳ふるの風あり。編者深くこれがために慨し、そが多年古文書研究の力を傾竭し、苦心焦慮の結果、かの親鸞聖人親蹟の草本として名高き東京坂東報恩寺所傳の『教行信證』につき、その一字一句も忽緒にするなく、全文を改めて讀み易き假名交り文に轉換せしめたるもの、實に本書也。然れば本書は從來流布せられたる杜撰なる延書本にあらず、また近時流行の現代語譯にあらず、最も純粹に偽りなき親鸞聖人の思想信仰を知るべき絶好の權威的良書たり。最近大谷派本願寺、坂東眞本複寫出版の舉あり、これを讀まむとするもの、ために本書はそれが最適の指針となる。若し夫れ聖人の生命宗教に直參せむとするの徒なる限り、須らく本書を繼いで、その眞諦に觸れよ。敢て薦む。

れ歸に昔の宗開教立

店書屋子丁

町屋數珠下市都京振
番〇九二〇一替

所行發

新刊 佛光寺小部集

戊午叢書 第四冊

|| 口繪玻璃版五葉 ||

【內容目次】 還相向向聞書——教化集——算頭錄——勸進帳——

繪系圖——光園院本
光照寺本 宗祖門侶交名帳——奉加帳

本集に收むる所は、佛光寺に關する何れも稀觀の典籍記録にして、特に新たに發見せられし門侶交名帳を加へて、眞宗敎團の發展を俾ふ料に供し、なほ卷末にはこれらの典籍記録に就きて一々詳細の解題を附し、眞宗史を窺はむとする士的好指針たらしめたり。印刷部數を限り殘本僅少なれば、機會を逸せず一本を購はれよ。

定價 金貳圓 送料 金八錢・和裝美本

發行所

京都市室町頭
大谷大學内

佛敎史學會

佛 教 研 究 第四卷 第三・四號

親鸞聖人著述研究號目次

口繪・親鸞聖人自筆唯信抄斷簡……………鈴木富太郎氏藏

親鸞聖人著述總論……………橋 川 正(一)

教行信證著作の意志及其の著作年代に就て……………中 澤 見 明(二)

教行信證古寫本の種類及びその最古の註疏……………日 下 無 倫(三)

本願三心の考察……………金 子 大 榮(九)

浄土文類聚鈔に就て……………大須賀 秀 道(一三)

淨土三經往生文類と往還廻向文類	加藤智學(二六)
三經往生文類に就て	鷲尾敎導(一四)
尊號眞像銘文と光明本尊	橋川正(一七)
一念多念文意の研究	山上正尊(一五)
入出二門偈頌の研究	廣瀨南雄(一五)
親鸞聖人御眞蹟唯信抄について	日下無倫(一九)
新鸞聖人の國語について	井上右近(二〇)
岡教邃君の梵文和譯法華經に就て	萩原雲來(二三)
最近佛敎研究論文一覽	(二六)

合掌改題

創刊號次

復興

本號二限り
六拾錢

口繪コロタイプ一葉(河内觀心寺本尊)

復興の精神……………卷頭言

傳統の意義……………金子大榮

復興の眞意義……………坂口昂

日本佛教の將來……………澤柳政太郎

近代詩論(一)……………文學博士 矢野峯人

ボーとその詩に就いて……………大谷大學教授 稻葉秀賢

斷想と詩……………大谷大學教授 廣瀨南雄

銀婚式(詩)……………岩井信實

秋興三十首(歌)……………岩井信實

曠原を歩みて(歌)……………里水素子

秋風の歌(歌)……………大宮園子

ルナンの生涯……………水野末彦

印度哲學への抗議……………廣濱嘉雄

廢娼……………法學士 廣濱嘉雄

社會問題私觀……………多屋弘

僧參運動社會運動……………石崎徹

佛陀成道の前後……………林五邦譯

追弔會の夜……………和田轟一

夕刊(二幕二場)……………岸本鬼史

石川五右衛門(二幕三場)……………井上賢一

創作

古典

時論

學材 涉獵

公開Web版図

親 下 日
人 聖 鸞 無
真 人 聖 鸞 親 文 論 の 氏 倫 無 下 日
唯 蹟 眞 人 聖 鸞 親 文 論 の 氏 倫 無 下 日
抄 信 唯 蹟 眞 人 聖 鸞 親 文 論 の 氏 倫 無 下 日
葉 二 抄 信 唯 蹟 眞 人 聖 鸞 親 文 論 の 氏 倫 無 下 日
(藏氏郎太富木鈴)

7. ページを参照するために抄信を

會 則

第一條 本會ハ佛敎研究会ト稱ス

第二條 本會ハ佛敎並ニコレニ關聯スル諸般ノ研究ヲナスヲ目的トス

第三條 本會ハ大谷大學敎職員學生及本會ノ主旨ニ賛同スルモノヲ以テ組織ス

第四條 本會ノ事業左ノ如シ

一、隔月一回例会ヲ開ク

二、隨時講演會ヲ開ク

三、年四回「佛敎研究」ヲ刊行ス

四、隨時出版ヲナス

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會 長 一 名

一、理 事 一 名

一、評 議 員 若干名

一、委 員 若干名

一、書 記 若干名

第六條 本會々員ハ「佛敎研究」ノ配布ヲ受ケ例會及講演會ニ出席スルコトヲ得

席スルコトヲ得

第七條 本會々員ハ年額金參圓ヲ納ムルモノトス

佛敎研究

年四回七月發行

會費年額金參圓

一部賣代金ハ隨宜申シ受ク

廣告料

一頁 金拾五圓、半頁 金拾圓

佛敎研究第四卷第一號

大正十二年十二月十五日印刷

大正十二年十二月二十日發行

不 許 複 製
禁 轉 載

編輯兼 佛敎研究會
發行者

右代表者 沼 波 政 憲

印刷者 須 磨 勘 兵 衛
京都市西洞院通七條南入

印刷所 京都市西洞院通七條南入
内外出版株式會社印刷部

發 行 所

京都市室町頭大谷大學内
振替大阪四九九七番

佛敎研究會